

29th 中間事業報告書

【第29期中】平成19年4月1日 ▶ 平成19年9月30日

aquaculture business
foods business

株主の皆さまにおかれましては、ますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第29期中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

当中間期におきまして、原油高騰やバイオ燃料転用に伴い穀物相場が高騰するなど、弊社を取り巻く経営環境はさらに厳しさを増しておりますが、グループ全体の効率化を追求し、消費者に許容される値上げと「食の安心・安全」に最善を尽くす所存であります。

また、ベトナムに設立しました子会社「HIGASHIMARU VIETNAM CO.,LTD」は、2008年2月にブラックタイガーエビ育成飼料の生産販売を開始し、当社が輸出するエビ種苗用飼料と併せて、ベトナム国内のシェア拡大に邁進するとともに、グローバル企業として、東南アジア周辺諸国やインドなどの海外市場開拓を精力的に進め、業績向上に努めて参りたいと存じます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

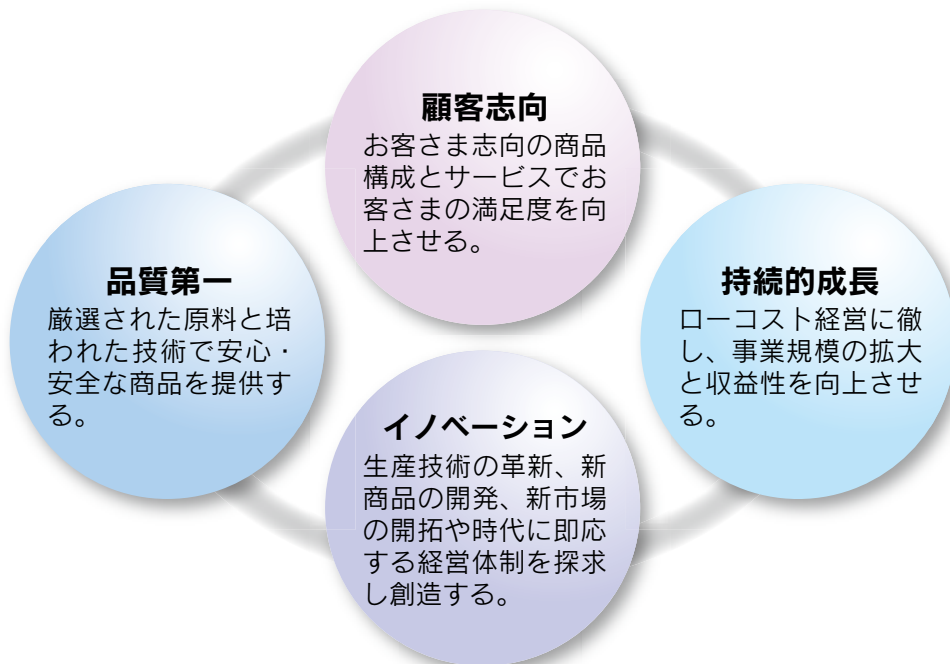
平成19年12月

代表取締役社長 東 紘一郎



会社の経営の基本方針

当社は、製造業の原点に立ち「品質第一」「顧客志向」を基本として、お客さまにより良い商品とサービスを提供し、新市場の開拓や新商品開発によって事業規模拡大を図り、もって業績の回復・向上を目指してまいります。



会社の対処すべき課題

BSE(牛海綿状脳症)発生の原因物質とされた肉骨粉が魚粉に置き換えられたことや東南アジア諸国の畜水産物の餌が配合飼料に転換されつつあることなど、急激な需要増加によって魚粉相場は一段と値上がりし、原油は90ドルを超える高騰によって燃料や資材及び包材などの価格が上昇し、また、バイオエタノール原料への転用や原産国が干ばつで穀物が不作になるなど、小麦粉やトウモロコシ、その他食用油なども値上がりして、飼料及び食品の原価は大幅に上昇し、当社の収益を圧迫してきております。

飼料製品は、年初に前期の原価上昇に応じて幾分値上げを実施しましたが、魚類相場が回復していない状況や消費者の購買力が回復していない状況では安易に値上げに踏み切るわけにもいかず、一方では品質を上げなければならず、生産設備の改善や生産効率を上げることによって生産コストの上昇を抑制する努力を続けておりますが、消費者や小売店の動向を見据え、細心の注意を払いつつ、販売価格の値上げに取り組んでまいります。

当中間期の経営成績(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、輸出は一時的に減速しましたが、新興国の高成績に支えられ欧州及びアジア向けの輸出が持ち直し、潜在的な設備投資意欲は引き続き根強く、大企業や輸出企業主体の収益拡大によって景気は緩やかに拡大を続けています。個人消費は、所得回復が鈍いなか、住民税負担の増加、年金問題による将来への不安、ガソリン価格の高騰で消費者マインドを悪化させたほか、梅雨明けの遅れや台風など天候の影響も受けて購買意欲は高まらず、個人消費は低い伸びに止まっています。

当社が関係する飼料業界や食品業界では、新興国の需要拡大による飼料原料の高騰、バイオ燃料転用による穀物価格の上昇、原油高による資材及び輸送コストの上昇など、原価は急激に上昇しているものの、消費が低い伸びを示していることから小売価格はわずかに上向いた程度で原価上昇分の一部しか転嫁できていない状況にあります。

このような状況のなか、当社は、高騰した原料に代わる代替原料への転換及び配合組成の変更や各種添加物による飼料の性能試験、海外市場を見据えたブラックタイガー用配合飼料の開発など、新商品開発や原価高騰抑制及び性能アップの研究開発活動を行い、品質及び生産効率アップの設備投資を行い、受託生産の拡大と新規顧客の獲得及び新商品の拡販に努めてまいりました。

その結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高は41億41百万円(前年同期比8.2%増)、営業利益は1億86百万円(前年同期比21.2%減)、経常利益は2億16百万円(前年同期比6.6%減)、中間純利益は1億99百万円(前年同期比45.1%増)となりました。

水産事業(3,500百万円)

【事業の内容】

水産事業は、国内シェアトップのクルマエビ飼料類を中心に、ハマチ飼料類、各種養魚用配合飼料の製造・販売を行っております。

シェア拡大の原動力は研究開発力であり、既存飼料の改良と新規飼料の開発、また、機能的・耐病的飼料の開発にも取り組み、養殖方法の技術指導を含めた幅広いサポート体制を整えております。

食品事業(640百万円)

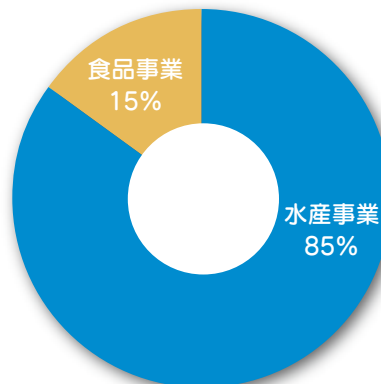
【事業の内容】

食品事業は、即席麺、乾麺、皿うどん、めんつゆ等を製造・販売しております。

伝統の味と品質をしっかり守りながら、厳選された天然素材から生まれる風味と香りを生かした製品づくりに努め、食にたずさわる企業として「安心・安全」の確保はもちろん、徹底した品質の維持を行っております。

第29期中(平成19年9月中間期)

連結売上高4,141百万円



当中間連結会計期間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

	売上高	営業費用	営業利益
水産事業	3,500	3,190	310
食品事業	640	657	△17
計	4,141	3,848	293
消去又は全社	(-)	106	(106)
連結	4,141	3,955	186

水産事業

水産事業におきましては、クルマエビ飼料類は、稚エビの不作や魚病被害の多発、養殖廃業又は休止、その他養殖生産規模縮減により販売量が減少し、ハマチやマダイなどの魚類飼料は、受託生産販売の拡大、新規顧客の獲得及び既存顧客のシェア拡大により好調に推移しました。

その結果、水産事業の売上高35億円(前年同期比21.4%増)となりました。



前中間連結会計期間(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

	売上高	営業費用	営業利益
水産事業	2,884	2,548	335
食品事業	944	917	26
計	3,828	3,466	361
消去又は全社	(-)	125	(125)
連結	3,828	3,591	236

食品事業

食品事業におきましては、即席麺類は、「即席鹿児島ラーメン亭」「長崎即席ちゃんぽん」の新商品を投入し、新規顧客を獲得するなど拡販に努めてまいりましたが、受託生産解消の影響で大きく販売額は減少しました。

乾麺・つゆ類は、梅雨明けの遅れや7月の相次ぐ台風などにより消費が伸び悩み、その他麺類は価格競争で業務用商材が落ち込みました。

その結果、食品事業の売上高は6億40百万円(前年同期比32.2%減)となりました。



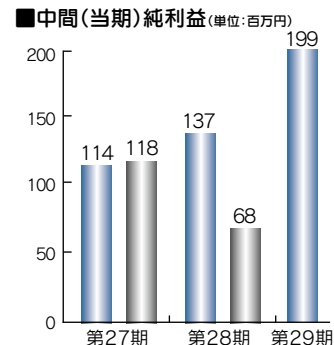
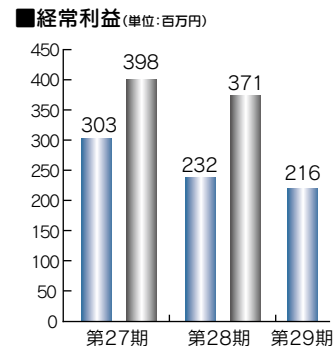
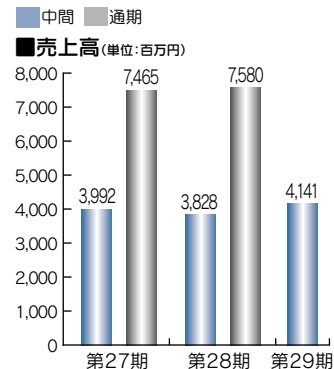
- (注) 1. 事業区分は、製造方法、市場及び販売方法の類似性を勘案して区分しております。
 2. 各事業の主な製品は次のとおりであります。
 (1) 水産事業…クルマエビ飼料類、ハマチ飼料類、その他養殖用飼料類
 (2) 食品事業…即席麺類、乾麺・つゆ類、その他麺類
 3. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結貸借対照表

			(単位:千円)		
科 目	当中間期末 平成19年9月30日	前期末 平成19年3月31日	科 目	当中間期末 平成19年9月30日	前期末 平成19年3月31日
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	4,899,084	3,569,560	流動負債	4,480,467	2,842,812
現金及び預金	972,434	1,156,390	買掛金	1,104,260	444,261
受取手形及び売掛金	2,302,734	1,217,210	短期借入金	3,086,022	2,148,547
たな卸資産	1,266,312	923,097	未払法人税等	7,158	—
その他	358,898	273,457	賞与引当金	78,605	59,206
貸倒引当金	△1,295	△595	その他	204,420	190,798
固定資産	5,111,775	4,803,124	固定負債	785,565	908,100
有形固定資産	3,836,459	3,819,501	長期借入金	264,938	406,101
建物及び構築物	1,099,017	1,120,764	役員退職慰労引当金	450,014	453,336
機械装置及び運搬具	877,077	847,373	その他	70,613	48,662
土地	1,746,746	1,746,746	負債合計	5,266,032	3,750,913
その他	113,618	104,618	(純資産の部)		
無形固定資産	14,148	5,990	株主資本	4,574,267	4,656,444
投資その他の資産	1,261,167	977,632	資本金	603,900	603,900
投資その他の資産	1,282,271	1,003,887	資本剰余金	458,400	458,400
貸倒引当金	△21,104	△26,254	利益剰余金	3,540,367	3,622,544
資産合計	10,010,860	8,372,685	自己株式	△28,400	△28,400
			評価・換算差額等	170,559	△34,671
			その他有価証券評価差額金	46,120	56,022
			繰延ヘッジ損益	124,438	153,249
			為替換算調整勘定	—	△243,943
			純資産合計	4,744,827	4,621,772
			負債純資産合計	10,010,860	8,372,685

(注) 1.有形固定資産の備前累計額 3,825,567千円 3,679,350千円
2.記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 1.1株当たり純資産額 1,008円25銭 982円10銭



中間連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日
売上高	4,141,386	3,828,261
売上原価	3,372,409	2,994,149
売上総利益	768,976	834,112
販売費及び一般管理費	582,656	597,679
営業利益	186,319	236,433
営業外収益	48,224	17,571
営業外費用	17,580	21,789
経常利益	216,964	232,216
特別利益	100,156	4,262
特別損失	56	505,564
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	317,064	△269,085
法人税、住民税及び事業税	488	135,469
法人税等調整額	117,161	△542,034
中間純利益	199,414	137,479

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△324,072	△356,442
投資活動によるキャッシュ・フロー	△496,897	△293,130
財務活動によるキャッシュ・フロー	758,664	601,503
現金及び現金同等物に係る換算差額	△70	1,388
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△62,377	△46,681
現金及び現金同等物の期首残高	565,404	611,420
現金及び現金同等物の期末残高	503,027	564,739

(注)1.現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び現金勘定	972,434千円	1,236,487千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△469,406千円	△671,747千円
現金及び現金同等物	503,027千円	564,739千円

2.記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書 (当中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	603,900	458,400	3,622,544	△28,400	4,656,444	56,022	153,249	△243,943	△34,671	4,621,772
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△37,648		△37,648					△37,648
関係会社構算による減少			△243,943		△243,943					△243,943
中間純利益			199,414		199,414					199,414
株主資本以外の項目の連結 会計期間中の変動額(純額)						△9,901	△28,810	243,943	205,231	205,231
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△82,176	—	△82,176	△9,901	△28,810	243,943	205,231	123,054
平成19年9月30日残高	603,900	458,400	3,540,367	△28,400	4,574,267	46,120	124,438	—	170,559	4,744,827

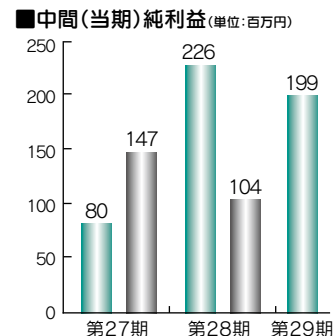
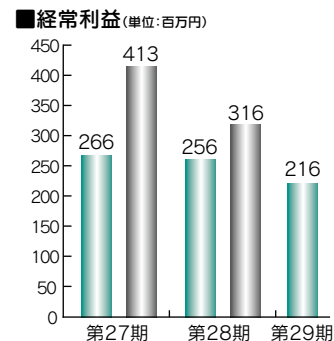
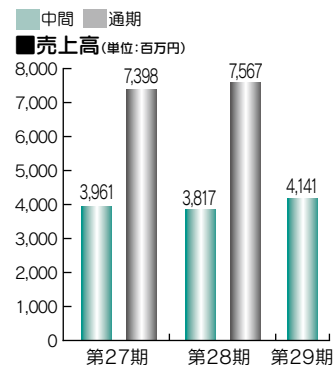
(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間個別貸借対照表

			(単位:千円)		
科目	当中間期末 平成19年9月30日	前期末 平成19年3月31日	科目	当中間期末 平成19年9月30日	前期末 平成19年3月31日
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	4,899,084	3,569,560	流動負債	4,480,467	2,842,812
現金及び預金	972,434	1,156,390	買掛金	1,104,260	444,261
受取手形	46,088	30,594	短期借入金	3,086,022	2,148,547
売掛金	2,256,646	1,186,616	未払法人税等	7,158	—
たな卸資産	1,266,312	923,097	賞与引当金	78,605	59,206
その他	358,898	273,457	その他	204,420	190,798
貸倒引当金	△1,295	△595	固定負債	785,565	908,100
固定資産	5,111,775	4,803,124	長期借入金	264,938	406,101
有形固定資産	3,836,459	3,819,501	役員退職慰労引当金	450,014	453,336
建物	978,408	996,613	その他	70,613	48,662
機械及び装置	865,289	833,055	負債合計	5,266,032	3,750,913
土地	1,746,746	1,746,746	(純資産の部)		
その他	246,015	243,086	株主資本	4,574,267	4,412,500
無形固定資産	14,148	5,990	資本金	603,900	603,900
投資その他の資産	1,261,167	977,632	資本剰余金	458,400	458,400
破産・更生債権等	—	18,810	利益剰余金	3,540,367	3,378,600
その他	1,282,271	985,076	自己株式	△28,400	△28,400
貸倒引当金	△21,104	△26,254	評価・換算差額等	170,559	209,271
資産合計	10,010,860	8,372,685	その他有価証券評価差額金	46,120	56,022
			繰延ヘッジ損益	124,438	153,249
			純資産合計	4,744,827	4,621,772
			負債純資産合計	10,010,860	8,372,685

(注) 1.有形固定資産の償却累計額 3,825,567千円 3,679,350千円
2.記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(注) 1.1株当たり純資産額 1,008円25銭 982円10銭



中間個別損益計算書

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日
売上高	4,141,386	3,817,797
売上原価	3,372,409	2,990,239
売上総利益	768,976	827,558
販売費及び一般管理費	582,656	585,648
営業利益	186,319	241,909
営業外収益	48,224	31,722
営業外費用	17,580	16,748
経常利益	216,964	256,883
特別利益	100,156	—
特別損失	56	437,400
税引前中間純利益又は 税引前中間純損失(△)	317,064	△180,516
法人税、住民税及び事業税	488	135,434
法人税等調整額	117,161	△542,332
中間純利益	199,414	226,381

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間個別株主資本等変動計算書

(当中間期 自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	603,900	458,400	3,378,600	△28,400	4,412,500	56,022	153,249	209,271	4,621,772
中間会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△37,648		△37,648				△37,648
中間純利益			199,414		199,414				199,414
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)					—	△9,901	△28,810	△38,712	△38,712
中間会計期間中の変動額合計	—	—	161,766	—	161,766	△9,901	△28,810	△38,712	123,054
平成19年9月30日残高	603,900	458,400	3,540,367	△28,400	4,574,267	46,120	124,438	170,559	4,744,827

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況

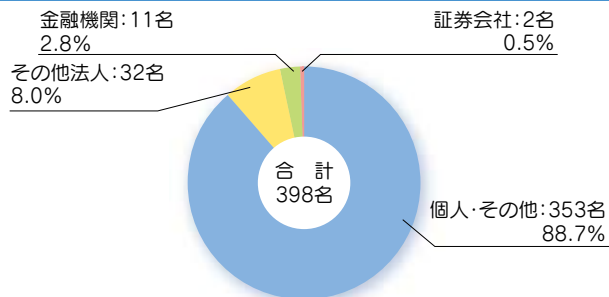
■株式状況

発行可能株式総数	17,900,000株
発行済株式総数	4,746,000株
株主数	398名

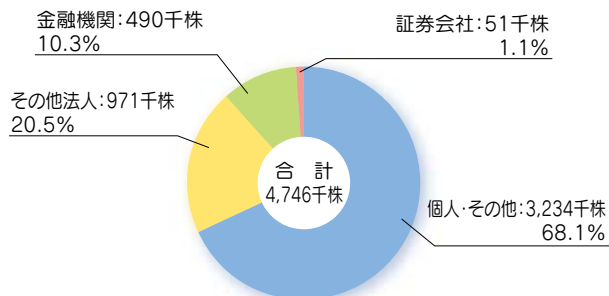
■大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
東 紘 一 郎	623	13.13
東 勤	571	12.03
東 実	571	12.03
東 吉 太 郎	547	11.53
ヒガシマル共栄会	393	8.28
東 久 江	380	8.01
エ ス ト 有 限 会 社	278	5.86
株式会社鹿児島銀行	165	3.48
鹿児島リース株式会社	120	2.53
ヒガシマル従業員持株会	80	1.69

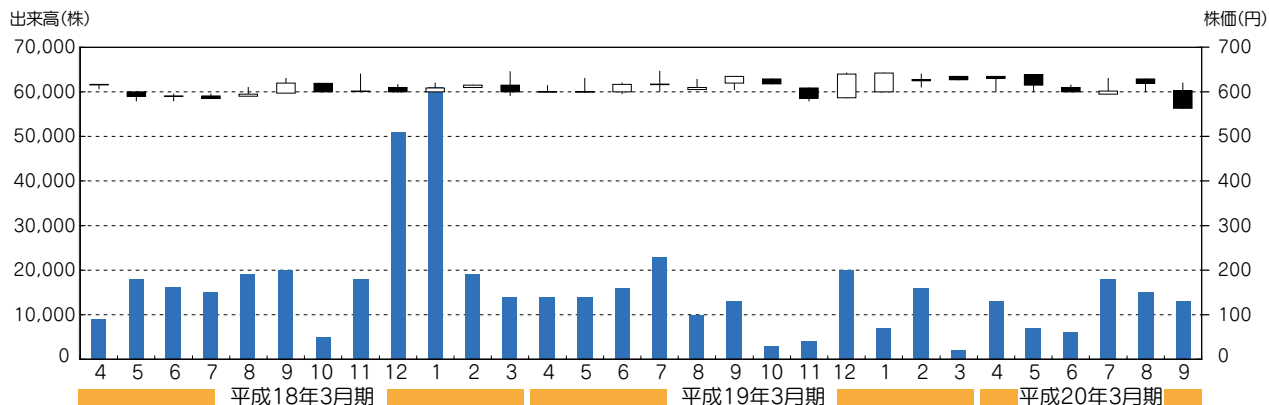
■所有者別株式分布状況



■所有数別株式分布状況



■株価及び出来高の推移



■株主優待のご案内

当社では、株主の皆さまへの利益還元の一環として、株主優待制度を設けております。

- ◆所有株式数1,000株(1単元)以上保有の株主さまに対し、3,000円相当の自社商品を年2回(6月・12月)送付させていただいております。
- ◆割当基準日は、3月末・9月末となっております。



(注)商品の内容は季節によって異なります。

■ホームページのご案内



当社ホームページにて、会社概要、決算短信、事業報告書などをご案内しております。ぜひご利用ください。

URL <http://www.k-higashimaru.co.jp/>

■会社の概要

社名	株式会社ヒガシマル HIGASHIMARU CO.,LTD.
設立	1979年10月2日
本社所在地	〒899-2594 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地 電話099-273-3859
資本金	6億390万円
従業員数	正社員 188名
事業内容	クルマエビ用配合飼料、魚類用配合飼料、 即席麺、乾麺、めんつゆ等の製造販売
工場	本社工場(日置市)、鹿児島工場、串木野工場、 串木野臨海研究所
営業所	関東営業所、四国営業所、福岡営業所、沖縄営業所

■役員

代表取締役会長	東	吉	太	郎
代表取締役社長	東	紘	一	郎
専務取締役	東			勤
常務取締役	東			実
常勤監査役	松	澤	宜	生
監査役	湯	浦	一	徳
監査役	福	園	英	昭

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
配当金受領株主	期末配当金受領株主確定日3月31日 (中間配当をする場合の配当金受領株主確定日は9月30日)
基準日	定時株主総会については3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
1単元の株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先 電話お問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行方。